**校長　幸川　由美子**

**令和２年度　学校経営計画及び学校評価**

**１　めざす学校像**

|  |
| --- |
| **生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とかかわることができる人を育てます。**  ★多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と教育相談により「4つの力」を育みます。  １．**学び続ける力**：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。  ２．**他者と関わり生きていく力**：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。  ３．**課題を乗り越える力**：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。  ４．**自分の将来を考える力**：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。 |

**２　中期的目標**

|  |
| --- |
| **１　「学び続ける力」**   1. わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。 2. すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。 3. 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。   ※学校教育自己診断における生徒の学習満足度　78%以上（勝山高校 H29：64.1%　H30：73.8%　R1：77.1%）  **２　「他者と関わり生きていく力」**   1. すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。 2. 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。 3. 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。 4. ボランティア活動、地域連携などの取組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。   ※学校教育自己診断における生徒・保護者の教育相談満足度　78%以上（勝山高校　H29：65.8%　H30：73.8%　R1：76.4%）    **３　「課題を乗り越える力」**   1. すべての教育活動において、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。 2. 生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。   **４　「自分の将来を考える力」**   1. インターンシップや職場見学を通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。 2. 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取組みをすすめる。   ※学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度　78%以上（勝山高校　H29：66.9%　H30：73.9%　R1：75.9%）  **５　信頼される学校**   1. 家庭や地域との連携強化をすすめ、本校の教育活動への理解を促進するための広報活動の充実を図る。 2. 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取組みをすすめる。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［令和　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

**３　本年度の取組内容及び自己評価**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　「学び続ける力」 | （１）わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。  （２）すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。  （３）教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。 | （１）  ・学習到達度別の選択科目の設置、習熟度別・少人数での授業展開を行う。  ・ICT機器を積極的に活用し、わかりやすい授業づくりを推進する。  （２）  ・安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切にした授業環境を整える。  ・授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。  （３）  ・学期ごとに授業見学週間を設定し、授業見学ｼｰﾄを活用する。  ・他校の公開授業や授業研究会等の研修への参加を奨励する。 | （１）（２）生徒向け自己診断において  ・「授業はわかりやすく、内容に満足できる」70%以上  ・「教え方に工夫をしている先生が多い」70%以上  ・「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれてい  る」70%以上  ・「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」75%  以上  ・「学習の評価について納得できる」75%以上  （３）  ・授業見学週間の授業見学回数を2回以上、授業見学週間  以外も含め学期に授業見学シートを3枚以上作成 |  |
| ２　「他者と関わり生きていく力」 | （１）すべての生徒が安心して学ぶことができるようSC、SSW等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。  （２）社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、SSTを活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。  （３）自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。 | （１）  ・高校生活支援ｶｰﾄﾞを活用するとともに、中学校・家庭・専門人  材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、  外部人材との協力により教育相談体制を構築する。  （２）  ・すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会  をつくりながら、SSTをすすめる。  ・SSTはその時間だけのものにならないよう、全教員がSSTに  ついて理解を深める。  （３）  ・自他を大切にする心を育むために、３Rを大切にする取り組み  を行う。  ・人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。 | （１）  ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度  75%以上  ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度　70%以上  （２）  ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」70%以上  （３）  ・生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」70%以上 |  |
| ３　「課題を乗り越える力」 | （１）すべての教育活動において、自ら考える力を育み、SSTを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。  （２）生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。 | （１）  ・総合的な探究の時間において計画的にSSTを実施する。  ・SSTについて教員研修を実施する。  （２）  ・教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CCと連携  して生徒支援を行う。 | （１）  ・総合的な探究に時間において計画的にSSTが実施できた  か。  ・SSTについての教員研修の振り返りがどうであったか。  （２）  ・ｹｰｽ会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。 |  |
| ４　「自分の将来を考える力」 | （１）生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にｷｬﾘｱﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ能力を高める取り組みをすすめる。 | （１）  ・入学時より個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を  引き出し、それぞれの生活スタイルやペースに合わせて将来につ  いて考える力をつける支援をする。  ・外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取  り組みをすすめる。 | （１）  ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方につい  て考える機会がある」60%以上  ・生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情  報を知らせてくれる」70%以上  ・外部講師、地域人材などを活用した講演会や交流などの  回数および内容。 |  |
| ５　信頼される学校 | （１）家庭や地域との連携強化をすすめ、本校の教育活動への理解を促進するための広報活動の充実を図る。  （２）教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取組みをすすめる。 | （１）  ・家庭との連絡は丁寧に行い、またﾒｰﾙﾏｶﾞｼﾞﾝにより迅速に情報  を提供する。  ・webﾍﾟｰｼﾞの更新、学校説明会、公開授業、個別相談、学校訪  門などにより広報を充実させる。  （２）  ・教職員間の情報共有と協力、業務の効率化、分掌間連携等を進  め、長時間勤務を縮減する。 | （１）  ・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育方針をわかり  やすく伝えている」80%以上  ・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を  提供する努力をしている」80%以上  （２）  ・教職員の時間外労働時間を前年度以下とする。 |  |